

〈解答〉

- ① 1 (1) イ (2) ①：南アメリカ ②：オーストラリア
2 ア
3 (1) 沖ノ鳥島 (2) ①：12 ②：排他的経済水域〔経済水域〕

配点 ① 1(1), 2, 3(1)は各2点 他は各1点 10点満点

〈解説〉

- ① 1(1) 緯度の高さによって太陽の光の当たり方が異なるため、緯度の高低は、世界各地の気候の違いに大きな影響を与えている。同じ地表の面積でも緯度が異なると太陽に対する角度が違うため日照量が異なる。緯度が低い赤道近くでは、太陽の光が常に強く当たるので、一年中高温である。一方、緯度が高い地域では、1年の中で太陽の光がよく当たる時期と、そうでない時期があり、太陽の光がよく当たらない時期には気温が上がらない。そのため赤道付近に比べて気温の低い地域が広がっている。
- (2) 気候帯の分布は、世界全体で見ると、面積の占める割合が大きい順に乾燥帯、冷帯、熱帯、寒帯、温帯の順になる。日本の大半が含まれる温帯の割合が最も小さくなっている。
- 2 イはスウェーデン、ウはイギリス、エはアメリカ合衆国である。日本はほかの国々と比べて急速に高齢化が進み、2005年には、総人口に対する老年人口の割合が20%近くまで増え、世界でも高齢化が最も進んだ国の一つになっている。
- 3(1) 沖ノ鳥島は、日本の最南端の北緯20度に位置している。
- (2) 領海の外側は、世界の国々が条約を結び、各国の海岸線から200海里以内にある水産資源や鉱産資源を自国のものにできる排他的経済水域を設けている。沖ノ鳥島が領土として存在することにより、島の周囲の約40万km²の範囲が日本の排他的経済水域として維持されている。